

中学2年国語 「仁和寺にある法師—「徒然草」から」

ねらい

- ・現代語訳や注を手がかりに読み、古典に表れたものの見方や考え方を知る。
- ・読み取った内容を自分の経験と結び付け、作者のものの見方について考える。

学習展開（1時間）

- ①徒然草に多い文の構成について復習する。
→登場人物が体験したこと、経験したことが書かれた後で、兼好法師の教訓が書かれている
- ②課題
「徒然草の他の章段を読み、兼好法師のものの見方や考え方を深めよう。」
- ③味見読書
→7分測り、5分味見読書、2分でワークシートをまとめる。
ワークシート内容
 - ・何段の話か
 - ・登場人物
 - ・あらすじ
 - ・感想
- ④他の章段を更に読みたい生徒に、本の貸し出しの時間をとった。



指導のポイント

- ・徒然草に多い文の構成を復習することで、味見読書をするときに、登場人物に起きた出来事と兼好法師の教訓を意識して生徒が読めるようにした。
- ・味見読書という形式で行うことで、様々な本に触れ、生徒が関心をもって作業に臨めるように意識した。
- ・章段を読むだけでなく、自分の感じたことや考えたことをワークシートに記入できるようにした。

学校図書館との関わり

図書館にある資料を用いて、教科書には載っていない徒然草の章段も読めるようにすることで、兼好法師の考えや徒然草という歴史的に読み継がれてきた作品について深められるようにした。

古典の作品には、様々な章段が書かれているものもあるので、今後古典作品を授業で扱う時には、図書館を活用して他の章段を読む機会を与えていきたい。